

橋に生る顔

大日本コンサルタント株

保全エンジニアリング研究所
計測・診断室室長

平山 博さん

「入社以来、主に吊橋や斜張橋などの長大橋の計画・設計や特殊な構造検討業務に携わってきました。どちらかというところ研究発的な業務が多く、どう取り組んでいいか悩むことも多いです」

会社に籍を置きながら博士号取得を目指して大学院で学ぶ制度の先鞭を付け、初回生として長岡技術科学大学へ。博士論文

は「橋梁構造物の最適構造設計の実用化に関する研究」。

「その時の研究分野が今の仕事に直結しているかといえばそうではないのですが、院で経験したことは仕事においてとても貴重だったと実感することが多いです」

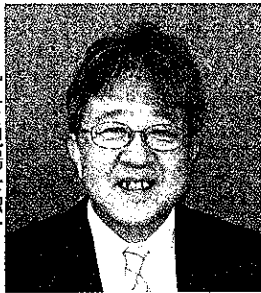
印象に残るプロジェクトは平成10年に参画した高架橋の耐震補強設計。「合理的な補強設計を実現するために、当時最高の

解析技術で橋の地震時挙動を正確に評価しようとして、毎夜遅くまでチーム一丸となって検討・議論したことが刺激的でしたし、とても勉強になりました」

は、「机上の解析技術と現場の計測技術を融合して、構造物の状態を正確に把握し適切に診断する技術の開発」を目指している。高齢化橋梁の長寿命化の需要などが背景にある。趣味はゴルフ。「50の手習い」で始め、年に2回程度コースに出る。「手近な施設もなく」練習はほとんどしない。「楽しんでやっています」座右の銘がある。「1日生きることは一歩進むことでありたい」。湯川秀樹博士の言葉で、学生時代にテレビから流れた言葉が心にとまった。

東京理科大学大学院理工学研究科土木工学専攻修了。埼玉県出身。50歳。

机上と現場を融合



全エンジニアリング研究所で

(根津寿子)